

春曙文庫蔵

源氏物語断簡(別本) はしひめ翻刻(一)

柿谷雄三

前号に引き続いて、本学図書館春曙文庫蔵「源氏物語断簡」(鎌倉時代・春一五七)の中、「はしひめ」二十丁分を、二回に分けて活字化する。活字化するにあたっての方針は、前号に同じである。

本断簡も、いわゆる升型本(縦一六・八種、横一五・六種)で、本文十行書き、料紙は斐紙を用い、型紙をおいて、代赭粉によるほかし絵(一丁裏・四丁裏・五丁表・八丁表)が入っている。筆者は不明であるが雄勁で力強く、ははきぎ・てならひの巻の筆勢に近い。なお、写真版(一丁裏・二丁表)を参照。

「はしひめ」二十丁は、八丁と十二丁とからなり、『源氏物語大成』巻三

(一)「して程ふるときは戀しくおほえ給」(二五一九頁10行目)から

「にほふ風の吹つるをおもひかけぬ」(二五二四頁7行目)までと

(二)「もてなひ給はむも中くうたてあらむ」(二五三二頁13行目)から

「御とふらひにかならずまいるへければかたくとまなく侍をまたこの」(二五四一頁1行目)まで

に相当する(今回は(一)のみ翻刻した)。脚注には前号と同じく『源氏物語大成 校異編』の底本本文(大島本)との主要異同を示し、参考に供した。「きこゑたまえはきこえたまへれば」と示した上の「きこゑたまえは」は、本断簡の本文(別本)、下の「きこえたまへれば」は大島本(青表紙本)の本文である。

してほとふる時はこひしく
 おほえ給このきみのかくたうとか
 りきこゑたまえはれんせい院よりは
 つねに御せうそくありてとしこ
 ろをとにもをさくきこゑたまはず
 いみしうさひしけなりし御
 すみかにやうくひとめみる時々あり
 をりふしにとふらひきこゑ給事い
 かめしうてこのきみもまつさる
 へき事につけつゝをかしきやうにも

(二オ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

〔春曙文庫本―源氏物語大成本〕

3 きこゑたまえは―きこゑたまへれは
 3 れんせい院よりは―れんせい院よりも
 4 御せうそく―御せうそこと
 5 をさくきこゑたまはず―おさくきこゑ給はず
 6 いみしうさひしけなりし―さひしけなりし
 6 御すみかに―御すみか
 7 ひとめ―人め
 7 時々―ときく
 8 とふらひきこゑ給事―とふらいきこゑ給こと
 8 いかめしうて―いかめしう

	1	まめやかにも—まめやかなるさまにも
	2	
	3	
	4	かはつら—河つら
	5	みゝかましよう—みゝかしかましく
	6	
	7	
	8	
	9	なかめ給ける—なかめ給けるころ
	10	ひさしくも—ひさしく
(一之)		

まめやかにもこゝろよせつかうまつり

たまふ事三年はかりになりぬ秋の

すえつかた四きにあてゝしたまふ

御念佛をこのかはつらはあしろのな

みもこのころはいとゝみゝかましようしつか

ならぬをとてかのあさりのすむてらの

たうにうつろひたまひて七日の

程をこなひ給ひめきみたちはいと

こゝろほそくつれくまさりてなかめ給

ける中將のきみひさしくもまいら

ぬ哉とおもひいてきこゑたまふ
 けるまゝにありあけの月またよ
 ふかくさしいつる程にいてたちていとし
 のひて御ともに人なともなくてそやつ
 れてをはしけりかはのこなたなれは
 ふねなともわつらはて御むまにて
 なりけりいりもていくまゝにきりふたか
 りてみちもみゑぬしけき野中を
 わけ給にいとあらましきかせのき
 をひにほろくとをちみたるゝこのは

(二才)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 きこゑたまふける―きこえ給ける
 2 ありあけの月―あり明の月の
 4 人なともなくてそ―人なともなくて
 5 かは―川
 6 御むま―御馬
 7 いらもていくまゝに―いりもてゆくまゝに
 7 きり―霧
 8 みちもみゑぬ―道もみえぬ
 8 しけき野中を―しけきの中を
 9 わけ給に―わけ給ふに
 9 かせのきをひに―風のきほひに
 10 このは―木葉

の露のをちかゝるもいとひやゝかに人

やりならずいたくぬれたまひぬ

かゝるありきなんともおさくくなら

ひ給はぬこゝちに心ほそくをか

しうおほえ給

山をろしにたえぬ木すゑの

露よりもあやなくもろき我なみた哉

やまかつのをとろくもうるさし

とてゆいしむのをともせさせ

給はすしはのまかきをわけつゝ

1 をちかゝるも―ちりかゝるも

3 ありきなんとも―ありきなども

4 こゝち―心ち

4 をかしう―おかしく

5 おほえ給―おほされけり

6 木すゑの―この葉の

7 我なみた哉―我涙かな

9 ゆいしむ―すいしん

(二ウ)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

そこはかとなき水なかれともをふみしたく
 こまのあしをとも猶しのひてよ
 うるし給へるにかくれなき御にほひは
 かせにしたかひてぬしゝらぬかと
 をとろくねさめのいゑありけるち
 かくなる程にその事ゝもきゝわか
 れぬものゝねともいとすこけにき
 こゆつねにかくあそひ給ときくを
 ついてなくてみこの御きんのねのなたかきをも
 きかぬそかしよきをりなるへしと

(三才)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 水―水の
 2 しのひて―しのひてと
 2 ようる―ようひ
 3 御にほひは―御にほひそ
 5 いゑ―家ゝ
 6 その事ゝも―そのことゝも
 8 あそひ給と―あそひたまふと
 9 みこの御きんのね―みやの御ことのね
 9 なたかきをも―なたかきも
 10 きかぬそかし―えきかぬそかし

おもひつゝいり給へはひはのこゑのひゝ
 きなりけりわうしきてうに
 しらへてよのつねのかきあはせなら
 ねとところからにやみゝなれぬこゝちして
 かき返はちのをともなきよけにをも
 しろしさうの事あはれになまめき
 たるこゑしてたゑくきこゆしはし
 きかまほしきにしひ給へと御けわひ
 するくきゝつけてとのひ人めくをのこ
 なまたくなしきいてきたり

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
 (三ウ)

1 ひはのこゑ―ひわのこゑ
 3 かきあはせならねと―かきあはせなれと
 4 こゝちして―心ちして
 5 かき返はちのをと―かきかへすはちのおとも
 6 さうの事―さうのこと
 6 なまめきたる―なまめひたる
 7 たゑく―たえく
 8 御けわひ―御けはひ
 10 なまたくなしき―なまかたくなしき

1	しかくしなむこもりをはします
2	御せうそくをこそきこゑさせめ うそこ
3	と申すなにしかきりある御をこな なにしかきりある―なにかしかかきりある
4	ひのほとまきはしきこゑさせん ほと―程を
5	にあいなしかくぬれくまいりきて ぬれくまいりきて―ぬれぬれまいりて
6	いたつらにかへらんうれをひめ うれを―うれへを
7	きみの御かたにきこゑてあは
8	れとのたまはせはなんなくさむ
9	へきとのたまへはみにくきかほを みにくきかほを―みにくきかほ
10	うちえみて申させはんへらん うちえみて―うちゑみて 申させはんへらん―申させ侍らむ

(四才)

とてたつをしはしやとめしよせて
 としころいとつてにのみきゝて
 ゆかしうおもふ御事のねともを
 うれしきをりかなすこしちかく
 たちかくれてきくへきものゝくま
 はありやこちなくさしすきて
 まいりよらぬほとみな事やめたま
 ひてはいとほひなからんとのたまふ
 けはひかほかたちのさるなをくし
 きこゝちにもいとめたくかたし

(四ウ) 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

2 いと一人
 3 ゆかしうゆかしく
 3 御事のねともを御ことのねともを
 4 すこしちかくしはしすこし
 5 ものゝくまはものゝくま
 6 こちなくつきなく
 7 まいりよらぬまいりよらむ
 7 事一こと
 8 のたまふけはひの給御けはひ
 10 こゝち心ち
 10 めたくめたく

けなくおほゆれは人きかぬときは
あけくれかくなんあそはせとし
も人にもみやこのかたよりまいり
たちまじるひと侍ときは
をともせさせ給はすおほかたかく
て女たちをはします事をは
かくさせ給ふなへての人にし
らせたてまつらしとおほしのた
まはするなりと申せはうちわらひ
てあちきなき御物かくしなりしか

(五才)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

3 みやこー宮こ

4 ひと侍ー人侍る

6 事ーこと

7 給ふー給ひ

10 御物かくしなりー御ものかくしなり

しのひ給なれとみな人あり

かたき世のためしにきこゑい

つめるをとのたまひてなをしるへ

せよわかればすきくしき心となき

人そかくてをはしますらむ御あり

さまのあやしうけになへてニおほえ

たまはぬなりとまめやかにのたま

へはあなかしこころなきやうに

のちのきこゑやはんへらんとてあな

たのをまへは竹のすいかきし

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

(五ウ)

2 きこゑいつめるをーきくいつへかめるを

4 わ(ミカ)れーわれ

6 あやしうーあやしく

7 まめやかにーこまやかに

9 きこゑやはんへらんーきこゑや侍らむ

10 をまへー御まへ

10 竹のすいかきーたけのすいかひ

こめてみなへたて事なめるを、

しへよせたてまつれり御ともの

人はにしのらうによひすゑてこの

殿る人あひしらふあなたにかよふへか

んめるすいかとをすこしをしあけて

み給へは○をかしき程にきりわたれるを

なかめてすたれをみしかくまきあけて

人々ゐたりすのこにいとさむけに身

ほそくなゑはめるわらは一人

をなしさまなるおとなもる

1

1 事なめるを―ことなるを

2

3

3 よひすゑて―よひすへて

4

4 殿る人―とのゐる人

5

4 へかんめる―へかめる
5 すいかとを―すひかひのとを

6

7

8

9

9 なゑはめる―なえはめる
一人―ひとり

10

10 おとなも―おとなと

(六才)

たりうちなる人ひとりはし
 らにすこしゐかくれてひはを
 まへにをきてはちをてまきくり
 しつゝゐたるに雲かくれたりつる
 月の俄いとあかくさしいて
 たれはあふきならてこれして
 もつきはまねきつへかりけりと
 てさしのそきたるかをいみ
 しょうらうたけにほひや
 かなるへしそひふし

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 (六ウ)

1 ひとり一人

5 俄にはかに

8 8
 かをーかほ
 いみしうーいみしく

たる人は事のうゑにかたふき
 かゝりているひをかへすはち
 こそありけれさま事にも思
 をよひ給御心かなとてうちわら
 ひたるけはひひますこし
 をもりかによしつきたりをよ
 はすともこれも月にはなるゝ物
 かはなどはかなき事うちと
 けのたまひかはしたるけはい
 ともさらによそに思やりしにはにす

(七才)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 事のうゑ―ことのうへ
 2 いるひ―いる日
 3 さま事にも―さまことにも
 3 思をよひ給―おもひをよひ給ふ
 6 をもりかに―おもりに
 8 はかなき事―はかなきことを
 9 のたまひかはしたる―の給かはしたる
 9 けはいとも―けはひと
 10 思やりし―思ひやりし

いとあはれになつかしうをかし
 むかしものかたりなどにかたりつた
 へわかき女房などのよむをも
 きくにならずかやうの事を
 いひたるさしもあらしとにくゝ
 をしはかるゝをけにあはれなる
 物ゝくまもありぬへかりけりはこゝろ
 うつりぬへしきりふかければ
 さやかにみゆへくもあらずまた
 月さしいてなどおほす程にをくの

(セウ) 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

2 かたりつたへ―かたりつたへて
 5 あらしと―あらさりけむと
 6 をしはかるゝを―おしはからるゝを
 7 物ゝくまも―物のくま
 7 ありぬへかりけりは―ありぬへき世なりけりと
 7 こゝろ―心
 10 など―なんと

かたよりかく人をはすとつけき
こゆる人やあらんすたれをろして
みないりぬをとろきかをにはあらず
のとやかにもてなしてやをらかに
れぬるけはひとものきぬのをと
もせすいとなよやかにこゝろくるし
うていみしうあてにみやひやかな
るをあはれと思給ふやをらたち
いて京に御くるまいてまいるへく人く
しらせつかはしてありつるさふらひに

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
(八才)

1 かく人をはす―人おはす
4 のとやかに―なこやかに
5 けはひともの―けはひともの
6 なよやかに―なよらかに
6 こゝろくるしうて―心くるしくて
8 思給ふ―おもひ給ふ
8 たちいて―いてて
9 御くるまいて―御車あて
9 人く―しらせつかはして―人はしらせつ

をりあしくまいり侍にけれとなかく
 うれしう思事すこしなくさめて
 なんかく候よしきこゑよいたく
 ぬれにたるかともきこゑせんかし
 とのたまへはまいりてきこゆ
 かくみゑやしぬらんとおほし
 もよらてうちとけたりつる事
 ともをきゝやし給ぬらむといみし
 うはつかしあやしうかうはしう
 にほふかせのふきゝつるを思かけぬ

(八ウ)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
10	10	9	8	8	6	4	4	3	3	2	
思かけぬーおもひかけぬ	ふきゝつるをー吹つるを	あやしうかうはしうーあやしうかうはしう	いみしうーいみしく	し給ぬらむーしたまひつらむ	みゑやしぬらんーみえやしぬらん	きこゑせんかしーきこえさせむかし	かともーかことも	いたくーいたう	きこゑよーきこえよ	かく候よしーかくさふらふよし	なんーなむ
									2	2	
									思事ーおもふこと	うれしうーうれしく	